
忘れたくないもの

ハヤシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れたくないもの

【Nコード】

N1305M

【作者名】

ハヤシ

【あらすじ】

今はもう会えない大好きだった人との忘れたくない思い出

出逢い

初めて会った日はドキドキして眠れなかった。

大して気乗りのしない、後輩からのコンパの誘いの飲み会。遅れてきて、目の前に座った彼方から目を離せなくなった。

少し茶髪のくせ毛に、笑うと半円になる目。

童顔な顔に生えてる不精ヒゲがアンバランスで、すごく魅力的だった。

その日に、メールアドレスを交換して、別れて。

好きになるまで、そうは時間はかからなかった。

今でも思い出す。あの頃は本当に毎日が楽しかった。

彼からのメールで一喜一憂して。

朝から晩まで、仕事中也ずっとずっと、考えるのは彼方の事ばかり。

舌つたらずで可愛い口調で話すから、

「可愛い」

って言ったら、

「なんでっ？」

って本気でムスつとする。

ものすごく男気があって長男気質。

でも、どこか繊細な感じで、何かを秘めているようなところがあった。

大好きだったから、もっと知りたいけど聞けない。

大好きだったから、彼の全てを抱きしめたいって思ったけど、

日々、2人で積み上げている何かを壊しちゃうそんな気がして、

いつもどこかで彼に対して踏み出せない自分が居た。

（今夜、22時頃電話していい？）

ってメール。大体、いつも、気遣ってくれて電話もくれてたよね。会う訳でもないのに、ものすごく、緊張して、ドキドキして時間近くになると

トイレ行くにも、お風呂に入るにも、携帯握りしめて歩いてたから携帯は汗まみれだったっけ。

「もしかして結婚してた事ある？」

っていきなり聞いた時、電話の向こうで一瞬止まってたよね。何回目かの電話だったかな。

傷

なんで、結婚してた事があるんじゃないか？って
思っただろう。

何となく、そんな感じがして、思わず電話で聞いてた。

「うん・・・」

って言われた時は、自分で聞いておきながら驚いた。

彼は1年前に離婚したばかりだった。

ものすごく好きだった元奥さんは、とても育ちの良い人だったらしい。

何かで一度、憤慨して手当たり次第にモノを投げた彼に、恐怖を覚えて実家へ

帰ってしまったらしい。

そして、その時にお腹の中に居た、2人の大切な宝物も勝手に墮胎してしまったそうだ。

泣きながら何度も、産んでくれってお願いしたけど、ダメだったって。

正直、あり得ない事だと思った。

彼の一方的な話だったから、事実は分からないけど、
元奥さんは、子供のような人だったんだな・・・って。

その時、まだ離婚の事、子供の事、引きずってるって言ってたな・・・
それを振り切る為に、大型バイクの免許をとって、ハーレーを
買ったんだって。

だから、私が出た時は、毎週末には必ずバイクに乗って、

あちこち旅してる人だった。

女をとつかえひつかえして、孕ませて、平気で中絶させる男だっ
て多いのに、その出来事を真正面から受け止めて、

一つの命を無くしてしまった事に、今でも苦しんでる彼はとても純
粋なんだな・・

って思った。

命の重さを考えれば、当然は当然なんだけど。

恋をしていた私には、その彼の傷を抱きしめてあげたかった。

でも、私には入れない部分で。

何をしてあげられる事もできなくて、

ただ、ただ、彼の話を聞いて、泣いてるだけだった。

仲間

彼の先輩で池田さんという人が居た。

初めて会った飲み会の時も、池田さんと一緒。

いつも2人はつるんでいて、

週末のハーレーの旅も、2人で楽しそうに出かけていた。

楽しそうにバイクの話や、行った先々の話をしている2人を見るのが、とても好きだった。

池田さんはとても穏やかな人で、私にも優しく接してくれた。

日曜日は必ず、彼は池田さんと2人で出掛けてしまう。

私は、どこへも行けずにひたすら、彼からのメールを待つ。

夕方、近くまで帰って来た所で、

「今、〇〇だから、後何分位で着くけど、一緒に夜ご飯どう？」
という連絡。

そして、そのまま、池田さんを含めて3人で食事。

そんな日曜日が当たり前になっていった。

今でこそ、高速道路はバイクは二人乗り解禁。

でも当時は、二人乗りは出来なかったから、

自分も連れて行ってなんて言えない。

その上、2人で好きなように、バイクで走ってるの時間が

好きなんだなって感じてたから、その時間を邪魔したくなかった。

ちよつとした連休があると、2人はテントや寝袋を持って、長距離で出掛ける。

その間、置いてけぼりにされているような寂しい気持ち。今頃、どこかな・・・？

なんていつもいつも考えて。

（今、〇〇県で美味しいうどんを食べてるよー）とか、

（池田さんと一生懸命、お土産選んだから楽しみにしてて！）
っていうメールの文字を、何度も何度も繰り返し見ても、バイクにまたがる彼に思いを馳せてた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1305m/>

忘れたくないもの

2010年10月17日00時11分発行